No. 100
公民館だより
平成８年12月
宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

公民館だより百号の発刊にあたり

館長　山下　清一

昭和二十四年に、社会教育法が制定され、公民館の設置目的が次のように明記されています。

「地域住民のために、実際生活に即する教育、学術及び文化に関する事業を行い、もって住民の教養の向上を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする。」

由良地区に公民館が設立され、初代館長、中西六右衛門氏（先代）のもと、発足したのが昭和二十八年のことです。

以来四十有余年、歴代の館長を始め、役員諸兄の郷土愛と、弛まぬご努力、地区の方々の熱意に支えられながら発展し、今日が迎えられました。

当時から、公民館活動についてのおしらせ等が、その都度発刊されていたようですが、残念ながら手元には残っていません。

記録によりますと、昭和六十二年三月、七代の小松館長が、四方元館長の要請を受け調査され、公民館だより一号が認定されました。詳細は第七十一号に掲載されていますが、記事によりますと、

「由良地区公民館だより」として定期的に発行されたのは、第四代館長、岸田六右衛門さん在任中の、昭和三十九年六月二十九日付け発刊紙を公民館だより第一号と位置付けられました。

この一号は、Ｂ４版のがり版刷りの一枚もので、左上に発刊するにあたってと、題し、

「今までの公民館運動を、よりみなさんのものにして、よりよい地区の発展のために、公民館活動の状況を連絡する機関紙として発行する事にした、将来は、この紙面を通じて意見の交換の場とし、又意見発表の場として発展する様希望します。皆さん方の御協力をお願い致します。」

（原文のまま）

以来、長年に亙り連綿として引き継がれ、一度の休刊もなくここに、百号記念号として、皆様にお届け出来ますことは、この上ない光栄であり、地区の皆様と共に喜び合いたいと思います。先輩諸兄の情熱とご労苦に敬意を表しながら、地区と共に発展する公民館の灯火として親しまれるよう紙面の充実を図りながら守り抜き、次代に引き継ぎたいと願っています。

保存されている公民館だよりを繙くと、その時々の出来ごとや懐かしい思い出が浮かんできます。

昭和四十年、五十年代には、新生活運動として、慶弔、仏事の簡素化や時間励行についての呼びかけが目を引きます。蜂子皇子にまつわる庄内由良地区との友好交流、今日では、訪問団の行き来等、一層盛んとなりました。小学生の親善活動の記事に感激し、彼の地の子供たちとの文通は未だ続いているかと気にかかります。

平成に入ると、地区の活性化対策や環境整備等、大きな課題が提起されています。愛する郷土由良の発展を目指し、人委せでなく、私たちは今こそ、今何をすべきか、知恵を出し、みんなで手を取り団結することが、何よりも大切だと思います。

行事報告

主事　酒田　治

●四部対抗球技大会

八月十四日（水）

当日、台風十二号が接近中で、風の強いなか試合が行なわれました。特に今年、第一部のソフトにおいて、選手として女性第一号（紅一点）が出場され、それもピッチャーで二試合完投……、チームの優勝に貢献されるという長い伝統の大会初めての記録が作られました。

試合後、手、足は大丈夫でしたか？

そうした中、台風の心配も吹っ飛び、和やかに無事終了出来ました。関係者の皆様、選手の皆様、どうも有難うございました。厚くお礼申し上げます。

成績は次のとおりです。

☆野球

第四部

一部 11 ― 二部 5
三部 0 ― 四部 13
一部 0 ― 三部 10

☆ソフトボール

第一部

二部 11 ― 一部 12
三部 8 ― 四部 6
二部 14 ― 三部 9

●盆踊り大会　八月十四日（水）

前日より屋台の設営をし、当日に備えていましたが、夕方より台風十二号による暴風警報が発令され中止となりました。

●四部対抗グランドゴルフ大会

十月五日（土）

夜の澄みきった空気の中、小学校グラウンド一杯を使い、一打一打に、ワイワイ、ガヤガヤ、短い時間でしたが、楽しいナイターの一夜でした。

ホールインワン賞も、昨年は二名でしたが、今年は一名でした。次回は腕を磨いていただき、たくさんの方のワン賞をお待ちしています。

ホールインワン　岸田　秀樹

	打数計	順位
一部	296	3
二部	288	1
三部	290	2
四部	290	2

●第三回芸能サークル発表会

十月二十七日（日）

一九九二年十月第一回の芸能サークル発表会が開催され、早、今年で第三回芸能サークル発表会を開催することが出来ました。別表のプログラムの通り、各サークルの皆様には大変お忙しいところ、ご無理を申し上げ、桝田輝子さんの名司会により、各サークルの方々の熱演による発表会が盛大に出来ましたことを厚くお礼申し上げます。ただ残念なことは、毎回ご出場をお願いし

舞台に色を添えていただいた、かかし座の皆さん、時代の流れと共にお顔が見られないようになりました。

機会がありましたら又、ご出場をお願い致します。

一、演奏（大正琴）	花かげ・さくら幻想曲	琴遊会
二、舞踊（子供連）	ディスコじょんがら	まろじ会
三、民謡（合唱・合奏）	貝殻節・ドンパン節 帆柱おこし音頭 ソーラン節	玉音会
四、剣舞（神心流）	本能寺	詩吟同好会
五、舞囃子	羽衣・放下僧	照謳会
六、舞踊	狐島田	芳玲の会
七、演奏（大正琴）	希望・越後獅子 懐かしの歌謡集(二)	琴修会
八、舞踊	源平流し	まろじ会
九、民謡（独唱）	北海鱈つり唄・淡海節 刈干切唄	玉音会
十、舞踊（花柳流）	お祭	まろじ会
十一、舞踊（花柳流）	獅子頭	芳玲の会
十二、詩吟（神心流）	四季を詠ず	詩吟同好会

●文化祭（婦人会と協賛）

十一月四日（月）

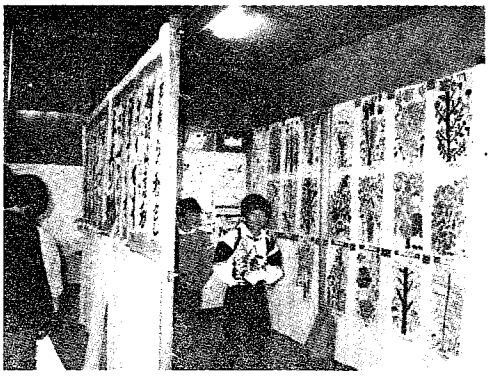
朝より天気は上々。

婦人会のバザー会場には、開店前よりお客様が来店。昼前になると、もう会場は人、ひとでごった返しの状況です。

室外の盆栽展では、丹精こめられた見事な数々の盆栽を鑑賞され、会場入口の壁には昨年に続き、少しでも由良の歴史を知っていただこうと、由良の歴史年表（未完成）を掲示させていただきました。

二階展覧会場には、階段正面に能面を、気分転換にホッと一息お茶の味（心）でと、お茶室を開設していただきました。

本会場には、小・中学生の絵画・習字・工作・習字教室の皆さんの力作・活花・チギリ絵・



写真・手芸・絵画・由良出身の若森（旧姓木村）さんの子供と小犬の仄々とした田園風景画等、一つ一つに精魂を込められた作品の数々に、ご来場の方々の目を楽しませていただいたと思います。

他方婦人会のうどん・ぜんざい会場・喫茶コーナーも大盛況の文化祭でした。

たくさんな出品、お茶席、等多くの皆様のご協力により盛大に無事終了出来ましたこと厚く御礼申し上げます。

公民館だより創刊百号を祝して

四方寿朗

歴史を学ぶのは大変興味がある。医学は天文学などと比べると、非常に新しい学問だと言える。十七世紀、西欧では天然痘、赤痢、ペストなど恐ろしい病気が大流行し、大変恐れられていた。しかしその原因は、地球の内部から発生する毒が体内に入り、体液の変化を来たすとの説が有力であった。一八五三年から三年間続いたクリミア戦争は、多くの犠牲者を出し、又野戦病院の創始者ナイチンゲールの活躍でも有名である。当時、戦傷で野戦病院へ入院すると、殆んど全員が破傷風に感染して死亡した。腕や脚を切断するような大きな手術も行なわれたが、使用する機具を殺菌消毒する考えは全くなかった。新しい患者の傷に破傷風菌が次々と感染して行ったのである。

一八六七年イギリスの外科医リスターが手術機具や傷を、石炭酸液で消毒すると、化膿を防ぐことが出来ると発表した。そして遂に一八七八年ドイツのコッホが破傷風菌を発見し、破傷風の原因が微生物の感染によって起きる事を証明した。これによって細菌学は一躍世界の脚光をあびた。以後これまで死の病として恐れられていた伝染病の原因菌が次々に発見され、その予防と治療に画期的な進歩をもたらしたのである。

私たちの祖先が人間と呼ばれるようになってから、約五十万年生きて来たなかで、ほんの百二十年前までは、伝染病が生物である細菌の感染によって起こる事を知らないために、多くの人々が命を落とした。今の私が若し仮に百二十年前の世界へ出向いて行けたとすれば、人類の偉大な救世主となる事が出来るであろう。人の後に立つことは易しいが、前に立つ事が如何に困難でしかも何とすばらしい事か、時代の流れというか、歴史とは面白いものである。

この度由良公民館だよりが創刊百号を迎えられるとお聞きし、感無量の思いがする。昭和二十四年社会教育法が施行されて、戦後の公民館活動が始まった。由良地区公民館長は中西六右衛門氏（先代）以来、井土巌氏、中西林兵衛氏、岸田六右衛門氏、四方寿朗、藤本秀雄氏、小松忠衛氏、小室哲寛氏、そして山下清一現館長である。

私がお受けした昭和四十一年四月に岸田前館長から頂戴した綴りの中に、昭和三十九年六月、十二月、四十年四月、七月、四十一年三月と計五枚の公民館だよりがあった。これ以前にも発行された事があったかもしれないが、年三回定期的に出されるようになったのは、昭和三十九年六月からと思われる。昭和五十二年三月に私が辞任後、これを第一号として通し番号をつける事にしていただいた。

あれから早十九年、今回めでたく百号を迎えたのである。最初はB4版、所謂ガリ版刷り一枚だった。記事が増えて昭和四十四年六月から現在の袋とじ型となった。印刷もローラーで一枚ずつでは追いつかなくなり、郵便局の輪転式のをお借りして能率を上げた。農協東隣りのカトリック教会が、当時の仮の公民館だった。印刷からホッチキスで綴じる作業が夜遅くまで続いたものだ。昭和六十二年からワープロが登場し、平成三年からはプロの手による現在の冊子となり、大変読みやすくなった。

公民館役員をはじめ、多くの方々の長年の努力が積み重なって百号となったのである。古い

号をひもとくと、新生活運動の申し合わせ事項、時間厳守規約、小学校改築問題、上水道建設、海岸浸蝕対策運動の記事など、その時代の貴重な記録で、歴史の一端がうかがわれて興味深い。温故知新という言葉がある。由良の歴史は由良の住民自身でつくらねばならぬ。今後共更に地区の願いや夢を自由活発にのせて、末永く継続される事を望んで止まない。

当時を振り返って

岸田　六右衛門

「公民館だより」百号記念に回想文をという申し出に接し、もうそんなに経ったかなという想いとよくそれだけ続けて頂けたなという想いが先ず頭をかすめました。私が館長をさせて頂いたのは中西林兵衛さんの後で昭和三十八年から四十一年迄の三年間でした。

三十三年前という年月を経て芒洋たる彼方の記憶で、想い出す事も少ないのですが、当時は若い人達も多く、世は経済成長期で由良地区も割合活気に満ちていた時代でした。

今、想い出の二、三を挙げてみますと、この公民館だよりは「公民館報」という形で発行されていました。何とか一般の方々の御意見を集約し公民館活動に参加を願い度いとの気持ちで「公民館だより」として融和と発展のために投書を呼びかけ、其の後投書も徐々に増えていった記憶があります。

それから当時は運営費が市から支給されましたが、ごく僅少で活動もままならず、何とかしてこれを地区の方にも御負担願えないものかと、自治会長さんに御願いしてみた所、希望に添える様に努力してやろうとの温かい御言葉で、区民の方々の御理解を得て活動費用を醵出して頂き一挙に倍増という活動資金が出来、公民館に賭ける期待と温情に、涙の出る程嬉しかった事を想い出します。

又、経済発展期特有の奢侈の風潮で総てが派手になって来たため、婦人会からの強い要望もあり地区内諸団体と何回も会合を重ね、公民館として由良地区統一の節倹規約を作り上げた事も想い出します。当時は割合良く守られてそれなりに評価されたわけですが、年と共に少しずつ派手になり現状にいたっておりますが当時の精神は今も生かされていると考えております。

三年後、四方寿朗さんにバトンを引き継がせて頂きました。

短い期間でしたので想い出す事はそれ位ですが、役員の方の努力と地区の方々の御協力に支えられた幸せな期間だったと感謝しております。

その後歴代館長さんをはじめ役員の方々の御努力で飛躍的な発展を続けています由良地区公民館の更なる発展を願って筆を擱きます。

四部対抗球技大会に参加して

蒲原　順一

去る八月十四日、恒例の野球、ソフトボール大会が、由良小グランドで開催されました。

当日は、普段あまり顔を会わすことのない人とも交流ができ、楽しい一日を過ごすことができました。

私が初めて参加させていただいたのは、まだ高校の時で、もうかれこれ十数年前になります。幼い頃から野球が好きで中学の時は野球部に入っていましたので、多少は自信がありましたが、知らない大人達に混じってのプレイということで、楽しみでもあり、不安も感じながら参加したのを覚えています。高校を卒業してからは、なかなか都合がつかず、しばらく参加できませんでしたが、三年前からは続けて参加させていただいています。

昨年、一昨年とハッスルするあまり、怪我人が出ましたが、今年は怪我をする人もなく無事に終わり、ほっとしました。

今までは、ただ参加するだけでしたが、昨年、今年とは体育部の役員ということで、人集めから準備、片付け、審判、試合とたいへんでしたが、裏方の苦労もわかり、良い経験をさせていただきました。

最近は、地区在住の若い方も少なくなり、特に野球は、未経験の方には敬遠されがちで、メンバーも集まりにくくなっています。より多くの方に参加していただく為にも、種目の見直しなど、今後の課題ではないでしょうか。

グランドゴルフに参加して

川崎　美幸

「ウワー、ホールインワンになりそう！」

でも残念でした。ボールは強くポールに当たり、はじかれて外へ出てしまいました。私が初めてグランドゴルフをしたのは二年前の四部対抗グランドゴルフでした。今年で連続三回の参加です。最初の年こんなもん面白いんやろか？　と半信半疑でしたが競技に入るとのめり込んでしまいバーディーだのパーだのボギーだのと大変な盛り上がりで楽しませてもらいました。これに味をしめ「来年も出させてな」と約束をして三回目となりました。

役員さん達が今年もなかなか趣向をこらしコースを考えられ、校庭から校舎の方へ登る坂を利用したコースなど、むずかしいのから簡単なものまで、みんなで上手だの下手だのと言いながらの競技です。

ゴルフはゴルフでもこのグランドゴルフはお金もかからず年齢に関係なく大勢の人で手軽に楽しめていいものです。

年だからと言って尻込みせず、何事にも前向きに参加して大声で笑うのもストレス解消の一つではないでしょうか？

四部対抗でしたが順位の事は考えずに楽しむだけ楽しませてもらいました。

芸能サークル発表会に参加して

吟一会員

第三回芸能祭が行われ、今回も参加させていただきました。

三味や太鼓で一緒に唄いたくなるような民謡から、身のひきしまるような舞獅子、懐かしいメロディの大正琴、可愛いい子供達の踊り、等々、皆さんそれぞれに日頃の練習の成果を発表され、見ごたえのあった半日だったと思います。詩吟も先生方、先輩と共にいろいろ相談し構成吟で、四季を詠う、と題して発表しました。今年は、ロングスカートを揃えてはと相談がまとまり、日もないので生地から、仕立からお世話に走っていただいた先輩、先生方の舞台での構成、ほんとに何からなにまでお世話になりました。お蔭様で少々ハプニングもありましたが、大成功でした。ある人が吟も良かったけどスカートも良かったで……とのおほめの言葉？　おもわずふき出してしまいました。

詩吟も次第に音楽的な要素が重要視され、リズムとか、音程とか、発声法とか声楽の一つとして見直される様になりました。詩吟といえば一口に皆さん堅苦しいとおもわれがちですが、由良教場は男女老熟年を問わず、上手下手なく歩調を合わせ細く長くをモットーに歩んでおります。皆さんも一寸吟じてみませんか。

宮津女性スポーツフェイティバルに参加して

一婦人会員

十月二十七日（日曜日）、宮津女性スポーツフェイティバルが市民体育館にて、盛大に開催されました。私は近年、腰痛に悩まされ、スポーツからは遠ざかっていましたが、今年は、支部の役員でもあり、少々足腰を気にしながらの参加でした。ひさびさに見るみんなの顔は、はつらつとし健康的で、今の私にはとても、うらやましく感じました。以前は何事にも参加させてもらっていた私でした。そして今回もみんなに劣ることなく頑張れたことに感謝しています。

入場行進、開会の挨拶、大会宣言と競技はスムーズに進行し和気あいあいの中で展開された。私は大玉ころがしの競技に二人で、スタートをきった。とても緊張した。みんなの声援をあびながらこの競技は一位になり、ホッとする。今度も頑張ろうとファイトが沸く。応援席に帰る途中、他のブロックの友達に会う。「お久しぶり、元気、頑張ろうネ」と励まし合う。勝敗にこだわらず、楽しく一日を過ごさせていただきました。大会を重ねる度に年齢を感じますが健康に留意して若い方に負けない様、来年も参加出来ることを願っています。

最後になりましたが、お世話して下さいました実行委員の方々本当にご苦労様でした。宮津女性スポーツフェスティバル来年もますます盛大に開催されますことを心よりお祈りしております。本当にありがとうございました。

芸能サークル発表会をおえて

上田町子

「あ～、もうちょっと稽古しとけば良かった」

十月二十七日芸能祭、舞台の袖でのこと。

「今年は芸能祭があるわねえ」と先生から言われ、うん、まだ日にちはあるし、何とかなる？かと思い「はい」と答えた。

またたく間に日は過ぎ、二ケ月前。「そろそろ稽古をしなくてはね」と言われ「ハイ」。とりあえずお稽古にかかる。一度舞った事のある曲だったので、最初からやるのとは違い、少し頭に残っている分だけ楽な様に思えた。

あと一ケ月に迫った。まだ一ケ月あると自分を慰める。

「泣いても笑ってもあと二週間ねえ」と先生、「ハイ」と私。心の中は大分あせっているが、まだ二週間あると思い直す。

あと一週間、あと三日、とうとう前日、リハーサルの日、大勢の出演者の方々の中で厚かましくも早目に稽古させてもらった。が、体が全然「舞」に馴じまない、情けないような出来ばえ。先生もひとこと「お粗末」。帰ってからもう一度稽古。又しても先生を煩わせる結果となってしまった。「まあ何とかなるでしょう。できたようで良いから」と言って貰い無罪放免。

そして当日。五番目というので早々と舞台の袖に上がり込み、高鳴る胸を抑え、側の中西さんに励まされていた（中西さんは堂々と落ちついていた）。舞台で演じられている大正琴も上の空、他の人が皆落ちついて見える。日頃言われている「もうこれ以上出来ないという程稽古して体に覚えさせるのよ」の言葉が頭をよぎる。この言葉を観念にのみ終わらせてしまっているグータラな私。それで「あ～、もう少し稽古をしとけば良かった」なのである。それでも何とか舞い納められたのが幸いであった。

ともあれこの拙い芸の発表の場を設けて下さった関係の方々、先生に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

ストレス・マネージメント

由良小学校長　角尾　誠

「現代の成人の六割を越える人が、肉体的疲労と体力の衰えを感じ、五割が精神的疲労やストレスを訴えている」

スポーツをする暇もなく、ストレスの解消もできない働き盛り世代の実態が、ある調査で浮き彫りになりました。

私達の回りには、知らず知らずの内に心の健康を蝕む危険性がたくさん潜んでいます。

人間の心は非常にデリケートなものです。一旦、心のバランスを失うと、中々解決の糸口を発見する事が出来ず、ズルズルと深みにはまってしまい悲しい結果を招くことさえあります。

過日、ラジオで！　ストレス・マネージメント！　と言う耳慣れない言葉を聞きました。横文字の氾濫で話を聞いていても中々理解するのに苦しむことの多い情報の中ですが、よく聞いてみると、その内容は、オリンピックを例にとって、「以前の日本の選手は、国の期待を一身に受け悲壮感さえ漂っているように思われた。しかし、今回選手の表

情を見る限りには、勝つことへの執念はあっても伸び伸びと競技し悲壮感は感じられなかった。」

ある選手は、「より多くの人が応援し、期待が大きければ大きいほど力が湧いてくる」というものでした。

即ち、多くの人からの期待というストレスをマイナス方向に働かせず、プラスの方向へ働かせていくということです。

〝ストレス・マネージメント〟とは、ストレスの対処の仕方の事で、ストレスを悪い方悪い方へと持っていくことでなく、ストレスを人生の肥やしにしていくという事だと分かりました。これからの社会構造は、益々複雑多岐となり、多くのストレスが鬱積していく事が予想されます。

私達は、ストレスを逆手にとり、逞しく生き抜く強い心身に切り替えていくことが求められるのではないでしょうか。そうしないと、社会という大きな怪物に押しつぶされてしまいそうです。

川柳

宮津番傘川柳会

ありがとう言葉笑顔が見えてくる　磯田　栄

それからの話長引く三姉妹

百才の魂修羅場切り抜ける　田村キヌエ

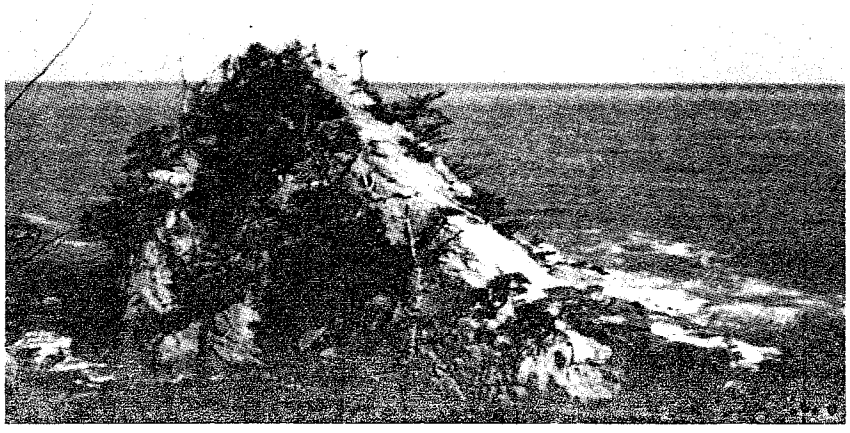
人生航路谷間で拾うコレクション

待つことに慣れて日を読む黄水仙　大森美智子

曼珠沙華君はコピーのままにいる

幕下りる掟未完の絵を急かす　飯沢鳴窓

抜け殻のようでひとつの生命です



文化祭をふり返って

由良婦人会脇支部　竹内俊子

この間の文化祭には、たくさんの人に来ていただきまして、ありがとうございました。

今まで、一つの地域の行事として、何げなく通り過ごしていた文化祭でしたが、今年はじめて中に入って動いてみて、これまでの役員の方々の御苦労を身を持って実感することができました。

最初は順調です、誰か知り合いが来ないかナ……なんて気持ちにも余裕があります。

そのうち思ってた以上の忙しさに、最初の元気はどこへやら、体力、気力とも、減退気味です。そんな時、

「ご苦労様、おいしかったよ。ありがとう」

という、やさしい一声が、焦り気味の気持ちを和らげ、「がんばろう！」と気持ちを呼び起こしてくれました。あの時、声をかけてくれた皆さん、どうもありがとう。

波が寄せるように、お昼前には満席……。しかも、持ち帰りのお客さんの長い列……。

「この人、まだ待ってもらっているんだ。次は絶対、してあげよう」そう心に決めます。

でも、うどんを席に持って行くと、あっちやこっちから手渡される券、券、券……心の中であやまり、ついついその券を受け取る始末。しかも、単純な頭は、いっぺんに受け取ってしまうと、パニック状態。誰から何を受けたか分からなくなる。あの時、いやな思いをさせた皆さん、どうもすみませんでした。調理場もてんやわんやです。何しろ、こんなにたくさんの量を、しかも、一時にすることなんてめったにあることじゃないのですから……。

「このうどん誰？」

「わたしー」

「違う。私が先やでー」

「ぜんざい三つ、持ち帰りか？」

「ここで食べまーす」

こんなやりとりが飛び交います。忙しくなるにつれ、普段の口数は少なくなり、知らず知らず、言葉も短くなります。

一人一役ではとても間に合いません。けれど、いくつもの事をしようとすると、頭はパニック、体はついて行かない。気持ばかり焦る。それでも、婦人会役員一同、気力、体力をふりしぼり、一丸となりがんばりました。

そして、忙しいながらも、和気あいあいとした雰囲気の中で、知らぬ間に、時間はバタバタと過ぎて行きました。

大変忙しかったけれど、それなりに楽しく、何よりも、全員で協力して、一つの行事を成し遂げた充実感と、心地良い疲労感をたっぷりと味わった一日でした。

最後になりましたが、多くの方々のご協力に感謝いたしますと共に、長い時間お待たせしたり、ご迷惑をおかけしました事、この紙面をお借りして、お詫びいたします。

本当に、どうもありがとうございました。

〃由良川下り〃寸感

中西悦子

〃由良川〃、この悠久の流れとともに育てられた肥沃な土地と、みどり。

この由良川を、流れにまかせて下る〃浜野路21会〃の企画に乗船させていただく機会に恵まれ、てんころ舟の流れと共に、つねには見ることのない両岸の景色を見ながら、私なりに感じた思いを記してみようと思います。

乗船は、大川神社の川岸、この大川神社の社伝によると、むかし金色の鮭に乗って、右手に養蚕の種子、左手に五穀の種子を持った神様が現れて、〃われ大川の里に至らんとす。〃と言われたので、この地に社を建てておまつりされたのだと聞きます。

このことから、由良川には、昔から鮭がのぼっていたんだなと、かってな想像もし、福知山では鮭の養殖のため捕獲をした話も聞いていたので、鮭にとっては母なる川なんだなと思うち、舟は吊橋の下あたり、この右側の山、話では昔、この中山の城は隣国若狭との戦いに敗れ敗走するのに行く手を由良川に阻まれ岸で敵に討たれたといった悲しい話もあるそうです。また、近くには、山椒太夫の所から逃げてきた安寿姫が疲れ果てて倒れたといわれる「かつえ坂」や安寿姫が身を投げたと伝える「安寿姫塚」など悲しい話も伝わる由良川でもありますが、一方では、この両岸は遠く縄文の頃から生活に必要な物などが、上る舟、下る舟によって運ばれた川でもあったようで、その中には由良から北前船によって遠く、方々に運ばれた物、又運ばれてきた物もあったのでしょう。

舟から両岸の景色を眺めておりますと、ながいながい歴史の流れの中で、川上からいろいろの物を運び、両岸には肥沃な土地を育て、緑豊かな土地を育んでくれたのだと思います。

わたし達がいつも眺めている由良川も、この様なかわった視点で見てみますと、わたし達の生活と深くかかわっていたんだなあーということを、あらためて思いなおす舟旅だったと思っています。

このように由良川について、深く考えなおす機会を与えていただいた〃浜野路21会〃のみなさんの活動について賛辞をおくりますとともに、本当に〃ありがとうございました〃と言わせていただきます。

文学の見える風景(十一)

上田三四二「夏行(げぎょう)」その四

中西夏江

P77　役場は宿の斡旋もした。村は総力をあげて夏の客を迎える準備をととのえていた。これという産業のない村は、夏場に賭け、そこに身を置いてみると、香村にもその期待の大きさがわかるのだった。

※　役場には拡声器が取りつけられ、駅前通りには、雪洞に灯が入る賑わいになります。やがて研修所では、畳屋の表替がはじまります。

P83～84　畳屋は腰の曲った老人で、服する時間になると、廊下の椅子に腰を掛けて、海の方を眺めながら香村たちに山椒太夫の話などをしてきかせた。

――由良の西の方にキノモト薬師があり、その西にキノナカがある。そのまた西が城崎(キノサキ)である。それぞれ薬師が祀ってあって、湯が出るのである。キノモトはいま温泉を掘っているが、まだ当てていない。温泉が出ると、由良は夏場だけではなく冬も客を呼ぶことができる。

―略（山椒太夫の話）―

首引き松というのがある。ここで山椒太夫は鋸で首を引かれた。旅人に一引きずつ引かせた。そののち、由良に田崩れ、崖崩れがおこったので、太夫を供養した。その碑がのこっていて明和八年の銘がある。……

明和は明応の聞きちがえであったかもしれない。香村は老人の話をおもしろく聞いた。

捩り鉢巻の畳屋は鉈豆煙草を吸いつけながら、ゆっくり、ゆっくり話をした。

「この研修所はもとは旅館でな。日進館といった。由良いちばんの旅館やった。」

畳屋はそんなことも話した。

香村は海を見下ろす古い大きな元旅館の二階で老人の昔話を聞いていると、それが彼の現実のなかで何か特別の時間のように思われ、そばにいる岸田を顧みた。岸田と井口は神妙に顔を揃えて老人を見上げていた。老人が、話に身が入って楽しそうなのは、彼にとって孫のような娘たちがいるからだと、香村は気がついた。

畳屋の仕事はその日三枚しかはかどらなかった。畳屋は、量(はか)のいかないのは仕事が丁寧だからだと言って、帰っていった。

『こういう老いかたも、いいな。』

彼は彼自身の行く末を、この老人のような屈託のない生き方に見付けたい気持にいつしかなっていた。

P93～94　浜でダンスパーティがあった。―略―　葭簀張りの喫茶と軽食の店が出来ていた。その店に拡声器をつけて、レコードで曲を流した。

―略―　踊場の方は裸電球がにぶく照らして、ようやく人の顔が判別できる。―略―

「三日月が出てますわね。」

香村が空を仰ぐのを待っていたかのように、岸田弥生がいった。細い月がにぶいあかがねの色に照りながら、西の山の上に落ちかかっていた。香村は、蜜柑畑の丘の上に見た丸い月を思い出した。三日月は呼び戻しようのない日の数が間違いなくこの海辺に過ぎたことの証しだった。

天の川が出ていた。彼は頭上を指さした。

「ほんと。きれい！」

さっきまで青みを湛えていた空は昏れて、天の川がおびただしい銀の砂を撒いていた。空の川は由良ケ嶽の上空から斜めに、彼らの頭上を刷いて海に流れた。遮るもののない空の大河は、さびしく、清(すが)やかに、浜辺に踊る

人達の上に懸っていた。

P95～96　立秋が過ぎた。

香村は栗田まで出掛けたときに買って以来ほとんど使うことのなかった麦藁帽子をかぶってひとり午後の浜に出た。彼は研修期間の満了を待たずに、明日にも由良を発とうとしていた。願いを出して、許可がおりたので、浜に名残を惜しもうと思ったのである。

研修所の裏庭、物干場の隅にある立葵は花を終って、素枯れはじめていた。彼はその傍らに一本の向日葵が高い茎の頂に金色の花を傾けているのを見ながら、横手の道を浜に下っていった。向日葵の大きな金色の花は彼を圧迫した。細い花首に不似合いなまでに豪華な黄金の花冠が、草花にしては思いあがった高みに、その重さに耐え切れないように傾(かし)いでいるのも彼を不安にした。

香村は後ろからくる岸田弥生に気がついて立ち止まった。二人だけで歩くのははじめてだった。彼らは松林を過ぎ、陽に灼けた砂浜に出た。遮るもののない明るい視界のなかに海が広がり、波打際を中心に、そこから沖と浜にかけて、たくさんの裸が群れていた。歓声が熱風のように押し寄せてくる。波の舌に追われて逃げてくる子供がいる。

―略―　香村と岸田弥生は葭簀を張った脱衣場のそばを通り、貸ボート屋の貸浮袋が杭にとおして積んである背後を過ぎて、河口の方へ歩いていった。河口附近は遊泳が禁止され、浜にも人影がほとんどない。

※　香村が急いで引揚の手続をとったのは、妻からの手紙（妹麻子の病状が悪化、緊急入院）に因るものでした。

P99～100　岸田と並んで河口のちかくまで来たとき、香村は砂浜に積まれた薪の山を見出した。

「キャンプ・ファイヤーだ。」

昨日の夕方、香村たちはここで男の子だけの中学生の団体に出会った。彼らは着いたばかりと見え、制服のまま裸足になって波に足を濡らしたり、口々に叫んだりした。学校の団体は公民館に泊るようだった。昨日やって来たその中学生が、今夜、浜でキャンプ・ファイヤーを楽しむらしかった。彼らの姿は見えない。

「見に来ようか。」

「……」

岸田は彼を見上げた。月の夜に「浜辺の歌」を唄ったのを彼は思い出していた。あのとき岸田弥生は糊のきいた浴衣を着ていたが、今日の彼女は白いブラウスに、臙脂のスカートをはいている。―略―

渚の砂の濡れているあたりのあちらこちらに小さな穴があった。岸田弥生はその穴に乾いた砂を注いだ。乾いた砂を目当に掘っていくと、小指の頭ほどの蟹があらわれる。研修所に来た当座、香村たちは人に教わってその風変わりな蟹の捕獲を楽しんだ。捕えたのを放してやると、蟹は海の方へ走って波に帰っていった。そのとき以来、顧みることをしなかった浜の遊びを、岸田弥生は香村の足許にうずくまってはじめていた。

彼はほっそりとした女の体を見下ろした。岸田弥生もまた癒えがたく病んでいるのだった。麻子のことが彼の念頭を去らなかった。

両手で砂を掻く。大きく掻き除けても乾いた砂の埋った穴は見失うことがない。何度かそうするうちに白い目印は消え、ひそんでいた獲物があらわれて逃げ出す。蟹は女の手に捕えられた。

掴んだまま波の縁で砂を落としてきた岸田は、濡れた手を香村の手に重ねて、蟹を移した。彼女は裸足になった。両手に靴を下げ、踝まで埋まる灼けた砂の上をずんずん歩いていった。

※　賑わう浜辺にも、寂しげな感情の逡巡が漂う文体です。

公民館だより百号記念回想文

小松忠衛

由良公民館だより百号記念（回想文）を発刊することになったので、生存される歴代館長全員に館長時代の思い出を書いてほしいとのことですが、十年余も昔のこと、年を重ねるにしたがって物忘れがひどくなり、まとまったことは書けないと思いますが、何とか振り返ってみたいと思います。

先ず、公民館だより第一号はどれだろうか。四方先生保存の資料を中心に初代館長時代より調査。今は勿論実物はないが、確かに見た記憶があるものを一号にしようということになり百号にまでなったと思う。私は主事さんはじめ公民館の役員の皆様のご協力により、六年余「たより」が発行できたのは役員さんは勿論のこと「たより」を担当していただいた係の人は特に大変だったと思います。当時はワープロ等は無く手書きで原稿を作ったり、ワープロが出てからは特定の部員さんにお願いしたりして百号までつづいてきたのです。お勤めの他に無理をお願いしたわけですから大変だったことと思います。ご苦労様でした。

今思いだせば、役員さんへの連絡事項も随分ありましたが、当時主事の平間さんが、脇の端から上石浦まで自転車で配ってくださいました。又何事にも積極的で、館長この問題は公民館として積極的に取組んでいきましょう、などといろいろアドバイスを受け励まされ大変有難かったと思い感謝しております。

公民館でも婦人会でも、その他どんな組織でもいろいろと都合があり研修会に参加しにくい場合がありましょう。与謝地区の研修会で婦人部から一婦人が婦人会など役員になりたくない、仕事が忙しいのに困ると公然と発言したのを思いだす。皆さんもいろいろと有ることは事実だとは思いますが、活力ある社会を、家庭を、そして由良を築いていくためには、学習活動は大切なのだと反省自覚し、学習に参加してほしいと思います。横道に逸れますが、消防由良団員が昼間由良におる人が三人、他の人に依頼しても家の都合で、仕事の関係で加入してくれないという。今の若者は何を考えているのだろうか。親はどう思っているのだろうか。

由良公民館では自治学級をやっている（自治学級があることは知っているいるだろう）同和学級もやっているが年々少なくなる感がする。面白くないから参加しないのだろうか、楽しいコミュニティ由良を作り上げるためにも沢山集まって話すことが大切なことである。

テレビでは、毎日青少年男女の非行やら性犯罪が放映されている。皆さんどんな思いで見ておられますか。

挨拶運動も最近は出来ていない。大きな看板が泣いている。

「あいさつと対話の街に非行なし」

「あいさつで結ぶみんなの心と心」

大人が子供に教えられている感じがする。

由良公民館目的の要約

一、教育学術
一、学術文化事業の実施
一、教養の向上
一、健康の増進
一、情操の純化
一、生活文化の振興
一、社会福祉の増進
一、自治能力の向上

公民館だより百号記念に寄せて

小室哲寛

由良地区公民館だよりが今回で百号を迎えますことを衷心よりお祝い申し上げます。

これまでにこの公民館だよりに深い愛着と熱意をもってたずさわって来られました公民館の先輩各位や現役員の方々に、深い敬意を表する次第であります。

由良の公民館だよりは、公民館活動のPRや、町づくりの広報に止まらず、地区の人々の心の通い合う共通の広場として、又展けゆく由良の指針としての役割を持っていると存じます。同時にこの小冊子は地区のその時々の歩みが明確に刻まれて、歴史の足跡となるものと存じます。

何卒この公民館だよりが皆様に親しまれ愛されて、より格調も高く成長し、私達の心のよりどころとして、何時の時代にも引きつがれ守りつがれて参りますように、私達は衷心より念願致しておるところであります。

公民館だよりは創刊当時は部員のご努力の滲む様なガリ版刷りで、幾晩も手分けをして皆で力を併せ作成された所産であり、慣れぬ中を多大のご労苦を重ねて他の公民館に魁けて創刊されましてから数えて百回目の発行となりましたことは感慨深く存じております。

それから後もこの仕事は皆の励ましと理解により続けられ、ガリ切りも何人かの部員に引き継がれ、工夫を試みられ、次第に読み易く立派なものとなって参りましたが、その永い間のご努力は如何ばかりかと拝察致しております。

その間、七十三号の頃から部員の中の奇篤な方の厚意により原稿をワープロで入力した大変スッキリとした体裁の良いものとなりましたが、これを打つ人は一人で、会社から帰られてから毎晩夜中まで作業しても旬日を要し、大変お気の毒な負担となって参りました。

そこで、八十四号からの印刷元本作りを業者に依頼することになり、現在の様に一頁四段でカットも入れ、さすがにアカ抜けしており、紙質も改良し見栄えもよくなり大変慶びに存じます。

内容におきましても、館長巻頭言、公民館行事報告と続き、関係団体長交替時の挨拶や特集の場合の関連特集記事を入れ、一般からのご寄稿の行事等の参加体験記、随筆、文学、短歌、俳句、川柳、サークル紹介、伝記、郷土史研究論文等々各層の方々から多くの力作の原稿をいただき益々バラエティに富んだ公民館だよりが定着して参りました。

特に郷土由良にかかわる「文学の見える風景」や、澤井市造翁の伝記や、由良の歴史と文化財、山椒太夫等格調高い文の連載により一層風格が備わり、内外に定評を得ていることは嬉しい限りに存じます。

これ等は地域の皆様の善意と関係役員の努力の結集によるもので、これが百号までも「継続」出来、更に次第に洗練されて参りましたことに対して敬意を表するものであります。

この「公民館だより」も創刊の根本の理念を失わず、今後の時代の変遷にもよく堪え、皆に愛され、多くの方々に読まれて感動を与え、又ほほえみのこぼれるような楽しい、しかも意義のある小冊子であってほしいと念願しております。

希くばこれからも次の二百号に向けて力強い足どりで地域と共に歩まれんことをお祈り致しております。

山形由良小学校との交流会

六年　竹田広邦

八月二十三日に山形由良小学校の皆さんが、ぼくたちの学校に来られて、ぼくたち五、六年生と交流会をもちました。今年でこの交流会も三回目になりました。山形由良小から来られたのは、児童会の役員六名です。山形由良小では、児童会とは呼ばず、運営委員会と言っていました。

ぼくたち由良小学校も、山形由良小を迎えるのに、準備からがんばりました。全校で交流会用のプレゼントを作ったり、みんなで頑張って迎える準備をしました。ぼくが一番大変だったのは、あいさつを考えることでした。しかし、児童会長として役目を果たすために、何回も下書きをし、先生に見てもらい、ほとんど毎日学校に行ってがんばりました。できあがった時は、とてもうれしかったです。

当日、九時半から交流会が始まりました。ぼくのあいさつになりました。ぼくは少し緊張ぎみで前に出ました。何回も書き直した原稿用紙を見ながら話していきました。読んでいったら緊張がほぐれていきました。

由良小学校の一年間の行事や、あんじゅとずし王の話を全部言い終わったら、なんだかほっとしました。

次に、山形由良小の説明があり、ビデオで山形由良小の行事や、町の行事など、分かりやすく説明してもらいました。とても話方がうまく、聞きやすかったです。また、山形由良小から、方言の問題など、とても楽しいことをしてくれました。

そのあと、プレゼント交換をして交流を深めました。

そして、山形由良小の人達とバスケットをしました。山形由良小の人は、バスケットがうまく、僕たちは、おどろいていました。バスケットが終わるころは、山形の人たちとも仲良くなり、女子は、住所を聞いたりしていました。

その日は、バスケットをして終わりました。あくる日は、山形由良小の人達を見送りに由良駅までいきました。駅で写真をとったり、あく手など、いろいろしました。汽車が来て、手をふりながら見送りました。

山形由良小との交流がやっと終わりました。僕は、児童会長としての役目がしっかり果たせホッとしました。そして、この交流会は大きくなっても、きっとよい思い出になると思います。

今後もずっと続けていってほしいです。また、機会があったら山形由良にも行ってみたいと思います。

編集後記

公民館だより百号が、皆様のお手もとにお届け出来るのは、年もおし詰った暮れのことと思います。公民館だより百号記念号として、今日尚、地区でご活躍されておられます歴代の館長様にお願いし玉稿を賜り記念号とさせていただきました。百号の意義を皆様と共に噛みしめたいと思います。

雪の下、冬の日のつれづれに、古い冊子を開けられ、旧い公民館の行事や、地区の出来ごとなどを偲ばれながら、由良地区の今日明日(あした)に思いを寄せられるのも一興かと思います。

今年の公民館行事も、皆様のご支援により、夫々盛大に意義深く遂行させていただきました。

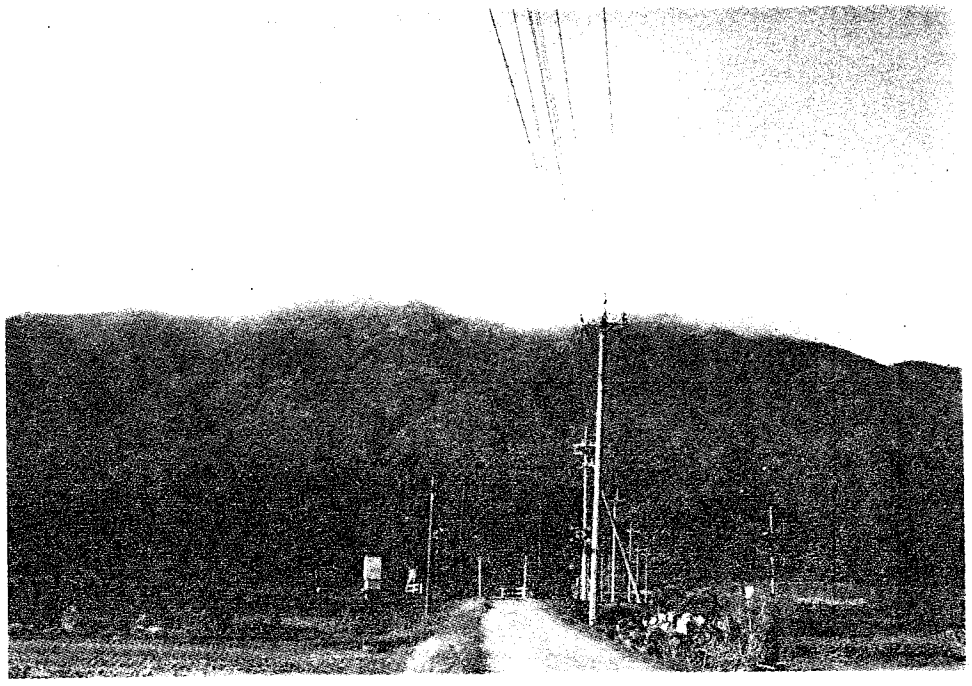
年が明けますと、

一月には、人権学習会
二月には、四部対抗男女バレーボール大会
四部対抗囲碁大会
自治学級
生涯学習講座講演会

等が予定されています。多くの方々のご参加を得て、実りの多い行事となりますよう、ご指導、ご支援をお願いします。

今年は、期待される景気も回復せず、また国の内外共何かと不祥事が重なりました。

新しい年は、是非良い年でありますよう皆様と共に、大いに期待を寄せたいと思います。

ご一家のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

来る年に
希望(おもい)を託す年の暮